

『単語篇』の“日本地図”
—『単語篇』(明治5年)の出版バリエーション—
Variety of Tangoen (1872)
; The text book of Japanese word in Meiji era.

大 橋 敦 夫
Ohashi Atsuo

[抄録]

明治初期の国語教科書の一つとして、文部省によって作成された『単語篇』(明治5(1872)年)は、府県ごとによって印刷出版された。そのため、文部省の提示した内容とは、若干あるいはかなり異なる異版を生み出すことになった。その相違の度合いについて、資料をもとに検討する。

[キーワード] 単語篇, 国語教科書, 国語教育史, 語彙

1. はじめに

明治初期の国語教科書の一つとして、文部省によって作成された『単語篇』(明治5(1872)年)は、当時の出版状況により⁽¹⁾、他の教科書と同じく、各府県ごとに出版が行われた。こうした出版事情は、各府県による創意工夫の余地を生み、同一書名のもとに、さまざまな異版を生み出すことになった。

『単語篇』をめぐる研究史において、この問題は、高木まさき氏によって先鞭がつけられている⁽²⁾。高木氏は、国会図書館・内閣文庫・東書文庫所蔵の『単語篇』とその類似書83種を調査され、次のような分類を示された。

①文部省編纂の『単語篇』1種⁽³⁾

①各府県によるそのほぼ忠実な翻刻19種

②『単語篇』の語に音訓・語注・挿絵などを施す注釈書の編集を主眼としたもの(若干語を増補したものもある)12種

③『単語篇』の語の上に大幅な増補を加えたもの32種

④単語集という点で『単語篇』に類似しつつも語彙が異質のもの19種

この調査によって、『単語篇』の出版バリエーションの大要が、知られることになった。が、さらに調査の範囲を広げることで、当時の教育に対する地域の特色がより豊かにつかめることになるのではないだろうか。

本稿では、これをモチーフに、先行研究において、取り上げられていない地域の資料（架蔵本）の検討を行い、今後の研究課題にも言及したい。

2. 追加資料の検討

神奈川県蔵蔵梓『単語篇 附府縣名』（明治6年2月）には、以下の3府66県の名が示されている。

府……	<u>東京</u>	<u>京都</u>	<u>大阪</u>							
縣……	<u>神奈川</u>	<u>兵庫</u>	長崎	新潟	埼玉	入間	<u>足柄</u>	木更津	印旛	新治
	茨城	群馬	栃木	宇都宮	奈良	堺	三重	度會	愛智	<u>濱松</u>
	静岡	<u>山梨</u>	滋賀	<u>岐阜</u>	筑摩	長野	<u>宮城</u>	福島	磐前	若松
	水澤	岩手	青森	<u>山形</u>	置賜	酒田	<u>秋田</u>	<u>敦賀</u>	<u>石川</u>	新川
	柏崎	相川	豊岡	鳥取	島根	濱田	<u>飾磨</u>	北條	<u>岡山</u>	小田
	広島	<u>山口</u>	和歌山	<u>名東</u>	香川	石鐵	神山	高智	<u>福岡</u>	三潞
	小倉	大分	佐賀	白川	宮崎	鹿児島				

このうち下線を施した19の府県と、千葉・熊谷・福井の3県で出版された『単語篇』については、すでに高木氏の調査で取り上げられたものである。

本稿では、これに加えて、新潟・栃木・愛知・静岡・滋賀・豊岡の6県の資料を、追加として検討する。

(1) 新潟県……5種

- a. 『単語篇』（明治6年）新潟縣下小學所用 一・二・三 3冊 ②に相当する
- b. 『単語篇』（明治6年）新潟縣下小學所用 中・下・2冊 ②に相当する
- c. 『単語篇』（明治7年）新潟縣下小學所用 一・1冊 ②に相当する
- d. 『単語篇 假名附』（明治7年7月）新潟縣廳 1冊 ②に相当する
- e. 『単語篇 假名附』（明治7年7月）新潟縣廳 1冊 ②に相当する

aとbの構成は、基本的には、同じとみられるが、aが楷書であるのに対し、bは草書体である。全般に、文字を大きく書いており、そのため3分冊になっていると考えられる。

「数」～「苗字略」に先立つ巻頭には、「いろは」「カタカナ五十音図」「喉音呼法」「濁音」「半濁音」「四種活用図」を置く。

なお、「喉音呼法」の部分は、aでは一冊めの巻頭部分にあるが、bでは、中の巻頭部分にある。共に3冊本ながら、題簽において「一・二・三」と「(上)・中・下」と相違していることから、bの方に更なる工夫がありそうである。

cは、aと同種で、刊行年のみの違いと見られる。

d・eは同一の版ながら、巻頭に、新潟縣廳からの序にあたるもの（1丁）と田中鼎の識語（1

丁)があるもの(d)とないもの(e)がある。ともに、「いろは」等はなく、「数」～「苗字略」に府県名(3府60県)を付す。また、書名のとおりに、全編にわたって、カタカナの読み仮名がついている。

(2) 栃木県……1種

『単語篇 附府県名』(明治6年6月) 栃木縣藏梓 1冊 ②に相当する
巻頭に「いろは」「カタカナ五十音図」「四種活用図」がおかれ、巻尾に府県名(3府66県)をおく。全編にわたって、元所蔵者の筆によると見られる朱注がある。

(3) 愛知県……1編

『単語篇』(明治5年) 愛知縣學校用

発売: 晩翠堂宗太郎(岡崎連尺町)・日進堂左橋(同六供) 1冊 ①に相当する
「いろは」「カタカナ五十音図」「四種活用図」「喉音呼法」「濁音」「半濁音」を巻頭におく。

(4) 静岡県……1種

『単語篇』(明治5年) 官許静岡縣重刻 1冊 ①に相当する
「いろは」「カタカナ五十音図」「四種活用図」を巻頭におく。

(5) 滋賀県……1種

『単語篇』(明治7年6月) 滋賀縣

滋賀縣下學校用書籍販賣所琵琶湖新聞會社 1冊 ①に相当する
「いろは」「カタカナ五十音図」「四種活用図」を巻頭におく。

同一本2種を架蔵するが、その違いは本文最終丁の後に、琵琶湖新聞會社の書籍広告(1丁)があるかないかである。

(6) 豊岡県……1種

『単語篇』(明治7年1月) 福知山豊岡縣支廳

發賣所: 福知山・中島勘右エ門・岡田清兵衛・中村母三郎 1冊 ①に相当する
「いろは」「カタカナ五十音図」「四種活用図」「喉音呼法」「濁音」「半濁音」を巻頭におく。

同一本2種を架蔵するが、その違いは本文最終丁の後に、書籍広告(1丁/阪府下発売書房心齋橋通安土町四丁目 北尾禹三郎)の有無である。なお、(1)～(5)がほぼ同じ大きさであるのに対し、この豊岡版は、版型がひとまわり小さい。

3. 本稿での資料に関する知見

高木氏の調査では、各府県ごとの特徴を次のようにまとめられていた。

ア.『単語篇』に極めて忠実なもの……15種

名東縣學校・千葉縣・岡山縣・岐阜(三浦源助)・石川縣學校・山形縣活版社・福井學校・
浜松縣・宮城縣・敦賀縣學校・飾磨縣・兵庫(鳩居堂)・越前(千秋与八)・福岡縣學校・
足柄縣

イ. 多少手を加えたもの……4種

京都府・大阪府學課・山口縣・神奈川縣庁

ウ. 特に注目されるもの……6種

『仮字単語篇』(山梨県) …… 仮名のみから成る

『単語』(秋田県)
『単語図解』(山梨県) } …… 『単語篇』を参考としつつも独自の編纂を行った

『単語読本』(熊谷県)
『単語図会』(熊谷県)
『単語読例』(熊谷県) } …… 独自の編纂を行い、かつ三種の本がセットとして
用いられていたと考えられる

今回の6県分の追加資料で、上記に加えること、

ア. 『単語篇』に極めて忠実なもの……4種

『単語篇』(明治5年) 愛知縣學校用

発売: 晩翠堂宗太郎(岡崎連尺町)・日進堂左橋(同六供) 1冊

*『単語篇』(明治5年) 官許静岡縣重刻 1冊

『単語篇』(明治7年6月) 滋賀縣 滋賀縣下學校用書籍販賣所琵琶湖新聞會社 1冊

**『単語篇』(明治7年1月) 福知山豊岡縣支廳

發賣所: 福知山・中島勘右エ門・岡田清兵衛・中村母三郎 1冊

*……「喉音呼法」「濁音」「半濁音」は、なし。

**……版型が小さい。

イ. 多少手を加えたもの……2種

『単語篇 假名附』(明治7年7月) 新潟縣廳 1冊

『単語篇 附府縣名』(明治6年6月) 栃木縣藏梓 1冊

ウ. 特に注目されるもの……1種

『単語篇』(明治6年) 新潟縣下小學所用 3冊

となる。

4. 言語に関する知見

個々の資料の状態によっては、元所蔵者の書き込みがあり、当時の言語状況を彷彿とさせる。たとえば、『単語篇 附府縣名』(明治6年6月) 栃木縣藏梓には、次のような朱注が書き込まれている。

○碼(ヤルド) 我曲尺三尺○一分一釐(二丁表・欄外)

○田方ハ間トハ云フベカラズ歩ト云フベシ(二丁裏・欄外)

・清水濱臣云 たふげハたうけと書べし(三丁表・欄外)

・鎗ハ鼎也 和名アシナベ ヤリハ槍之(五丁裏・欄外)

・蝶(カハヒラコ) 古語梯ニ云飛虫也 字鏡ニ加波比良古(七丁裏・欄外)

・泥(ヒジリコ) ドロトイフハ其物ヲ形容シテイフ語ニテ古語ニアラズ(九丁表・欄外)

・蒸露罐ランビキ 蜜語(一二丁表・本文)

・鎗字侯音ニ属シ 音トウ之 呉音ツ 然レドモ常ニ呼ニ從フ(一二丁裏・欄外)

○足柄縣ヲ廢シ伊豆國ハ静岡縣へ 相模國ハ神奈縣へ合併(二八丁表・欄外)

これらの記述から推察すると、この書き込みの主は、生徒ではなく、教員もしくは同等の読書家と考えられる。明治初期の漢字・漢語の読み、単語の意味に関する「常識」、外来語の認定意識、府県名の変遷などがつぶさにうかがい知れる。

さらに、いくつかの語の読みについて、『単語篇 假名附』（明治7年7月）新潟縣廳の例とも比較してみると、次のような対比例が挙げられる。

（左：『単語篇 附府縣名』（明治6年6月）栃木縣藏梓／

右：『単語篇 假名附』（明治7年7月）新潟縣廳

東京……トウキヤウ／トウケイ（二七丁裏）

大阪……オホザカ／オホサカ（二七丁裏）

度會……ワタラヘ／ワタラヒ（二八丁表）

愛智……アエチ／アイチ（二八丁表）

漢字音の相違、清濁の違い、[i] と [e] の交替などが見てとれる。このような相違が、地域差によるものか、作成者・書き込み者の内省によるものかは即断しかねるが、たいへん興味深い用例である。

5. 今後の課題 —『単語篇』研究の現状と課題—

前章のような事例は、未知・未見の資料の用例を重ねれば重ねるだけ、当然のことながら、それだけ多様な考察が可能となる。そのためにも、更に資料探査に励む必要がある。すべての府県で出版が行われたのかは不明だが、一つでも多くの県の例を見たい。

『単語篇』という資料そのものへの沈潜については、これまでの研究において、以下の方向性が示されている。

まず、資料の博搜という点では、先行研究者の古田東朔⁽⁴⁾・望月久貴の両氏の後を承け、高木まさき氏が、もっとも広範な提示をされた。その成果によって、高木氏は『単語篇』の成立について、類書系古辞書の性格（意味による語彙分類）を有し、語数の上では学習者の負担に配慮しており、従来「陳腐説」（往来物と大差なく、学習者の発達段階もほとんど考慮していない）を退けた。筆者も、現段階の資料検討では、高木説を支持したい。

なお、成立論に関し、古田・望月・高木の三氏は、『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』などの洋学系の単語集の語彙との一致にも目をむけられた。それぞれ違う位相の語が採られていることから一致をみないとの結論が導き出されている。

また、『単語篇』の類書についての追究は、高木氏の独壇場の感がある。が、これも本稿の方法論と同じく、資料範囲が広がると、それだけ言及の範囲が広く深くなる。これについては別稿を用意し検討したい。

書き込みのなされた資料についての研究は、鈴木真喜男氏のもの一例にとどまる。実際の教育現場でどのように使用されたのか、教師側・生徒側双方の『単語篇』が見つかるとおもしろい。が、それは僥倖となれば、まずは傍証をということで、当時の教育記録類を丹念に見ていくことも心がけたい。それが、府県によっては独自の内容を生み出すことになった事情説明に

もつながる可能性がある。

注

1. 用紙の調達の問題とともに、主に木製の版下での印刷によることから、一か所での大量印刷は、物理的に不可能であった。そのため、文部省からの見本本をもとに、府県ごとでの印刷が行われていた。
2. 高木まさき氏 (1992)
3. 『単語篇』の基本的構成は、以下のとおり。

単語篇一篇

いろは、カタカナ五十音図、喉音呼法、濁音、半濁音、四種活用図

数、方、形、色、度、量、衡、貨、田尺、時、天文、地理、居処、人倫、身体、衣服、布帛、飲食、器財、金石、穀菜、果類、草木、鳥獸、魚虫介

単語篇二篇

方、形、色、天文、時令、地理、居処、人倫、身体、衣服、布帛、飲食、器財、金石、穀菜、果類、草木、鳥獸、魚虫介

単語篇三篇

歴代帝号、年号尽、苗字略

4. 古田東朔氏『教科書から見た明治初期の言語・文字の教育』光風出版 1957.9

【参考文献】(五十音順／刊年順)

- 板倉 雅宣 「本木初号活字版『単語篇 上』の紹介」『印刷史研究』8 (印刷史研究会〈横浜市〉) 2000.7
- 板倉 雅宣 「『単語篇』に見られる活字と印刷」『叢書月刊』20-9 (彷徨舎) 2004.8
- 鈴木真喜男 「『単語篇』に児童がつけたふりがなについて」『松村 明教授還暦記念 国語学と国語史』明治書院 1977.11
- 高木まさき 「単語篇とその類似書」『人文科教育研究』19 (人文科教育学会／筑波大学教育学系 人文科教育研究室内) 1992.8
- 高木まさき 「『単語篇』の研究」『国語科教育』40 (全国大学国語教育学会編集／学芸図書) 1993.3
- 高木まさき 「明治初年の文字教育と今日の国語科教育」『月刊国語教育研究』265 (日本国語教育学会編) 1994.5
- 高木まさき 「単語篇と洋学単語教科書」『国語教育研究の現代的視点』東洋館出版社 1994.8